

連載 番外編



「5億年の記憶」コラージュ：島田 浩

天長地久 天地所以能長且久者
以其不自生 故能長生

天は長く地は久し。天地の能く長く且つ久しき所以の者は、其の自ら生ぜざるを以て、故に能く長生す。（老子『道德経』上篇 第七章）

今や、2人に1人がガンで逝く時代になった。

私といえば、10代、50代で、両親をガンで喪った。だから、私のガン発生率は10割近いことになる。そのためか、兄弟は薬剤師と医師になり、私も自然食品店を生業とする健康への関わりも、家族の因縁めいたものを感じるのだ。

文明と進化の光に、無明と病気の闇が隠れていた。ガンは、発ガン性物質による現代病と認識され勝ちだが、その淵源は意外にも太古にまで遡る。“自然だから無病”ではなかったのだ。

ガンの原型 5億5千万年前

1億5千万年前の恐竜ディプロドクスの骨の化石に、既に蝕まれたガン組織が発見された。

更に遡る事、5億5千万年前。単細胞から多細胞生物が誕生した際、ガン細胞が埋め込まれたという。体を維持するため、分裂し複製される細胞が、時にコピーミスをする。そこからガン細胞が発生して増殖を繰り返す。

で発展した。そして、この脳の異常な巨大化は、細胞の材料となる脂肪酸を作り出す大量のFAS（脂肪酸合成酵素）にあった。細胞を賦活し、ネットワークを活性化させる重要な物質。脳を巨大化する代償こそ、またもやガン増殖の危険性を孕んでいた。正常細胞には、FASは見られない。ほぼ全てのガン細胞は、大量のFASを使つて増殖していることが解明されたのだ。

出アフリカ 6万年前

人類発祥の地アフリカから、6万年前に欧州・アジア・アメリカ大陸へ向けてグレートジャーニー、人類は世界に散らばった。赤道直下から南北に分散して緯度の高い地域に移住した人種は、太陽光ことに紫外線の激減に影響を受けた。大腸ガンの高い死亡率は、紫外線の少ない地域であった。紫外線によりビタミンDが作られる。その減少が、ガン発症率と比例した。世界に広がった繁栄の見返りに、人類はガンという代償を支払わねばならなくなった。

三大革命 1万年〜現代

一、農業革命

260万年前まで狩猟生活を営んでいた人

●プロフィール
1950年、北海道恵庭市生まれ。
83年、札幌に自然食品の店「まほろば」をスタート。無農薬野菜を栽培する自然農園を持ち、オーガニックカフェとパン工房も併設。世界の権威を驚愕させた浄水器「エリクサー」を開発し、その水から世界初の微生物由来の新凝乳酵素を発見。国際特許を取得する。0-1テストを使って独自の商品開発を続ける。
著書『優詩』

宮下周平

類は、約1万年前、自ら耕作して収穫し、放牧して搾乳することを覚えた。それは、即ち定住であり、食糧の備蓄であった。だが、長いスパンに培った消化代謝の体内メカニズムは、1／260の間では完全に糖質や乳質に対応出来ていない。それがガン発生引き鉄ともなった。加えて、運動量の激減。これら生活様式の激変により、万病が蔓延してゆく。

二、産業革命

18世紀に始まった産業革命。その第一は、電気の発明であった。町の灯り、夜の活動は、700万年の人類の記憶では有り得ぬことだった。太陽と共に昼働き、夜休む自然のリズム、ガン抑制システムは、ここで完全に崩された。その原因は松果腺から分泌されるホルモン、メラトニンの急速な減少にあった。夜間勤務、24時間営業の働き手のメラトニンの量は、日中勤務に比し1／5、ガン発生率は、2／3倍に高まる。

三、情報革命

産業革命を肉体の崩壊とすれば、第3の波、情報革命は精神の崩壊であろう。情報知識の海に溺れ人類は主体性を失い、デジタルで繋がった歪な社会構造はストレスを増幅し、心身共に疲弊し人間性は瓦解されようとして

この多細胞として生存する限り、ガンの宿命からは逃れられない。

繁殖戦略 700万年前

チンパンジーと人のDNAは99%同じである。だが、わずか1%に過ぎないこの差が、ガン化する特徴だった。動物には一定の発情期があり、チンパンジーのメスは妊娠期に性を膨らませて時期を報せる。700万年前、枝分かれした人間は、二足歩行で手が自由に使い、多くの食糧を獲得してメスの元に届け、その見返りとしてオスと交尾するようになった。この交尾期のサインを隠すメスの繁殖戦略は当たった。オスは常に交尾のため、食糧を運ぶ。そのため、取り込んだ通年発情する仕組みが、ガン細胞にも利用されたのだ。つまり、精子を絶えず増殖するDNAとシステムが、ガンのそれと共通するという驚くべき事実だった。

脳の巨大化 180万年前

180万年前のホモエレクトスの脳の重量は、250万年前の猿人アウストラロピテクス・ガルヒに比し、ほぼ2倍、現生人類の75%にも及ぶ1000mlに達していた。石を割っただけの石器から、石同士で鋭い切れ味を作り出した着想は、ついには高度な知性にま

いる。加えて、放射性物質、ダイオキシン、アスベスト、ウイルス、農薬、添加物などの化学物質、公害問題。無限とも言える発ガン性物質は、何処までも執拗に人間を陥れるであろう。巨大な文明開化の幻想から、人類は奈落の底に転落していく。

悠久の太古から、ガンの恐怖に晒されて来た人類。そのDNAの奥深き因子に刻まれたガンの刻印は、そう易々と消すことは出来ない。小手先の療法では、その元凶を殲滅することも難い。いわば、700万年にわたる進化の歴史が、今の負の遺産を生んだのだ。光は闇を生む。だが、それは真実に光であったのだろうか。文明という知性の自立は、実は無明という煩惱の果てしなき欲望を生んで来た。それに、人類は二律背反の掟に自分自分の首を絞めるように苦悶して来たのだ。

しかし翻ってみれば、その悠久の間、過酷なる環境下で精算淘汰を受けて生き残って来た奇跡の子孫こそ、私達とも言える。そして、ガン以上に強い生命力を秘めた人類でもあるといえまいか。

未来に一縷の希望を持とう！

それは、一言『自然に還る』『古に帰る』としか言いようのない薬であり、医療なのだ。